

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
	御坊市立名田小学校	高台 浩
学校所在地		
(〒 644 - 0023) 和歌山県御坊市名田町野島326 Tel 0738(29)2334 fax 0738(29)3226		
担当者名		役職名・担当教科
小川智子 / 弓倉亮哉		6年担任・5年担任
<p>〔学校の概要〕 校区は御坊市名田町野島地区（祓井戸地区、野島地区、加尾地区）、上野地区、楠井地区の3集落よりなる。御坊市南部の細長い平野の中央に位置し、南北7キロに及ぶ校区をなす。付近は幼稚園・小学校・中学校・工業高等専門学校の4種の学園が隣接し、教育環境は恵まれている。保護者の約4分の1は専業農家で、ビニールハウスで野菜や花を栽培している。特に、全国屈指の出荷量を誇る、スターチスや宿根かすみ草は、この名田町でハウス栽培されている。夜になるとビニールハウス内に花を育てるための灯りがともり、幻想的な雰囲気醸し出し、本校もこのたくさんのハウスに囲まれたところに建っている。イチゴやメロン、スイカも多く栽培されている。 児童数は減少傾向であるが、教育条件としては適切な集団規模と考えられる。児童会や縦割り清掃活動などを中心に上級生と下級生の交流が多い。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年5, 6年生 27名	4名 職員 4名	本校・大門坂・熊野那智大社・青岸渡寺・那智の滝
実践研究テーマ		
和歌山の文化歴史について理解を深め、郷土の魅力について考える。		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	和歌山の世界遺産について知り、魅力を伝えよう	
<p>〔キーワード〕 世界遺産・文化、歴史の継承・ふるさと学習</p>		
<p>〔単元目標〕 (1)世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について知り、その価値や素晴らしさについて理解しようとする。 (知識および技能) (2)自分たちの生活の基盤であるふるさとが、様々なつながりによっていることを認識し、地域への帰属意識とふるさととしての意識を高め、これからの自己のあり方、生き方を考えようとする。 (学びに向かう力、人間性) (3)自分の興味関心に基づいた学習課題をもち、インタビューやインターネット、資料等を活用して調べる方法を考え出し、情報収集したり必要な情報を取捨選択したりして、目的に応じた資料の収集整理をしようとする。 (思考力・判断力・表現力)</p>		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕 全体 8 時間 （「 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の魅力を伝えよう 」 8時間 ）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕 「世界遺産入門講座」受講 … 名田小学校にて世界遺産協議会事務局土永さんによる講義 熊野参詣道ウォーク(大門坂～熊野那智大社・那智山青岸渡寺～那智大滝) … 世界遺産マスターによる案内を受け見学</p>		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	世界遺産について知り、「紀伊山地の霊場と参詣道」についての理解を深める。	・知りたいことや疑問、感想を話す場を設ける。	ワークシート 発言 (知識および技能)
2	世界遺産マスターの方々のガイドで現地学習を行う。 (大門坂・熊野那智大社・青岸渡寺・那智の滝)	・世界遺産マスターの方の解説をより児童に伝わりやすくするよう補助する。	発言 (学びに向かう力、人間性)
3	学習、体験したことをICTを活用してまとめる。	・インターネットや資料で調べたこと、事前学習で教えてもらったことや現地体験で学んだことなどをふまえて、魅力が伝わる方法、内容を考えさせる。 ・自分の興味関心をもった部分に焦点を絞ってまとめ学習ができるようグループを作る。	成果物 ワークシート 観察 (思考力・判断力・表現力)
〔单元学習の成果と課題〕			
(成果) ・和歌山県にある世界遺産について実際に目にすることでその素晴らしさや価値に気付き、改めて自分たちが住んでいる県の魅力として捉える児童が増えた。 ・和歌山県にある世界遺産について、知らない人や次の世代の人にも伝えていきたいという気持ちが芽生えてきた。			
(課題) ・現地で世界遺産マスターの方にたくさん教えてもらったことはあったがスケジュール的にも時間の余裕がなくメモできる時間があまりなかったことで、貴重な情報も時間とともに薄れてしまいまとめ学習で生かしきれなかった。 ・多くの外国の方がいらっしやったのでその方々にインタビューするなどして、海外の方からの視点で日本の遺産としての価値に触れられるようにするとよりよかった。			
〔世界遺産学習の効果〕			
・和歌山県にある世界遺産を「知っている」だけだった児童が、実際に行くことでその価値に気付き、他の世界遺産にも目を向け始めるきっかけとなり、興味関心が高まった。 ・世界遺産マスターの方のお話は、歴史的なことだけにとどまらず豆知識的なことまで幅広く、様々な知識や経験を聞く機会となり、「人から学ぶ」面でも貴重な機会となった。 ・児童が「和歌山県ってすごい！」を体感できる、学習機会となった。			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
・6年生が校区に残る史跡（王子跡・紀伊路）について学習しているので、「紀伊山地の霊場と参詣道」とのつながりをもっと一度おさえておく必要がある。そうすることで、身近にある史跡の価値にも気づき、自分が住んでいる名田地域に対する想いを深めることに繋がると考える。			

様式 2

到着後、2つの班に分かれ、歴史や文化への解説をしていただきながら、熊野古道を歩いた。子どもたちは、熊野詣の歴史や昔の人の文化などに触れ、熊野古道への理解を深めていた。児童は「歩くのが大変だけど、なんだか気持ちいい。」などの感想を言いながら熊野古道を歩いていた。実際に参拝をして、その壮大さを感じることができた。



次に三重の塔近くで、昼食を食べた。「歩くのはしんどかったけど、上からの景色を見たら疲れがふっとんだ。」と児童は感想を述べていた。豊かな自然の中で楽しく、みんなで弁当を食べることができた。



その後、那智の滝へ。向かう途中で野生の鹿に遭遇し、豊かな自然を感じることができた。那智の滝到着後、古道マスターの方の丁寧な説明を受け、理解を深めることができていた。大きなおみくじに驚いている児童もいた。

実際に、那智の滝に参拝し、熊野三山や熊野古道への理解を深めることができた。「那智の滝はどうやってできたんだろう。」と疑問をつぶやいている児童もあり、世界遺産への興味・感心の高まりを感じた。

